

合板下地工法（カバー） 施工の手順

下地の確認

- ・既存屋根
住宅屋根化粧スレート、鉄板平葺き、アスファルトシングルなど。
- ・野地板
強度がない。
- ・改修用物件チェックシート（P79）を併せて確認してください。



下地の調整

既存部材の取り外しと加工

- ・既存棟包み、既存隅棟包みを取り外してください。
- ・既存ケラバ水切を加工してください。
- ・既存雨押えを加工してください。



受木と構造用合板の施工

- ・軒先とケラバに受木（15×90）の取り付けてください。
- ・構造用合板 特類2級（厚さ12mm）を施工してください。



唐草G50または 改修用一体唐草29の 取り付け

- ・唐草G50は、捨て水切（現場加工）を施工してください。
- ・唐草を水平に取り付けるために、墨出しを行ってください。本体の仕上がりに影響します。



下葺き材の施工

- ・下葺き材は、全面に施工してください。勾配によって使用する下葺き材が異なりますので、施工前に勾配と下葺き材の種類を確認ください。詳しくは、69ページを参照してください。



ケラバの施工

- ・ケラバ水切または、ケラバ下地Dを取り付けてください。



墨出し

- ・たる木の位置が確認できるように墨出しを行ってください。
- ・本体の働き幅で墨出しを行ってください。



各部の納まり

- ・P71～を参照してください。
- ・取り合いの加工方法は、直張工法と合わせて確認してください。
- ・本体及び部材の留め付け間隔は455mm以下としてください。



検査（補修）クリーニング

- ・表面材のキズの補修やクリーニングについては、**取り扱い時のお願い、アイジールーフを美しく保つために**を確認し、適切に行ってください。

合板下地工法（カバー） 下地の調整

○受木と構造用合板の施工

軒先

ケラバ

○軒先とケラバには、受木（15×90）を取り付けてください。
 ○構造用合板 特類2級（厚さ12mm）を施工してください。
 注意：小幅板は使用しないでください。

○唐草G50の施工

○唐草G50を施工する前に、墨出しを行ってください。
 ○唐草G50は、墨出しに合わせて施工してください。本体の仕上がりに影響します。唐草G50同士をつなぐため、切り欠き加工が施されています。

事故防止のため
取り扱い時のお願い
美しく保つために
アイジールーフ適用地域一覧
施工に必要な工具
本体・部材規格
改修物件の調査・確認
工法の確認
下書き材・留め具の選定
直張工法
合板下地工法（カバー）
合板下地工法（葺き替え）
積算方法
改修物件チェックシート
免責事項

○下葺き材の施工

下葺き材は、全面に施工してください。勾配によって使用する下葺き材が異なりますので、施工前に勾配と下葺き材の種類を確認してください。
 野地板留めの場合は、P13～を参照してください。

勾配	2.5 寸～ 3.5 寸未満	3.5 寸以上
流れ長さ	7m 以下	20m 以下
下葺き材	片面粘着層付き改質アスファルトルーフィング	改質アスファルトルーフィング

一般

○流れ方向100mm以上、水平方向200mm以上重ねてください。

軒先

○唐草G50は、接続部に水抜き穴があります。水抜き穴を下葺き材で、ふさがないように注意してください。
 ※片面粘着層付き改質アスファルトルーフィングの場合は、無し。

谷

①谷の中心に合わせ、下葺き材を施工してください。
 ②下葺き材は、片側250mm以上ずつ重ねてください。

棟

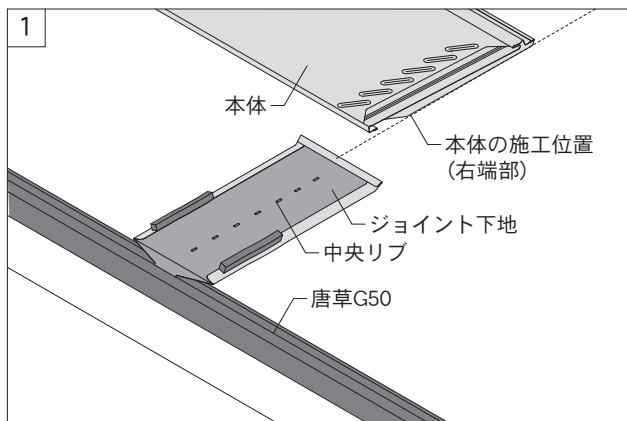
①下葺き材は、片側250mm以上重ねて施工してください。
 ②下葺き材は、棟の頂点に合わせ増し張りを行ってください。

合板下地工法（カバー） 各部の納まり

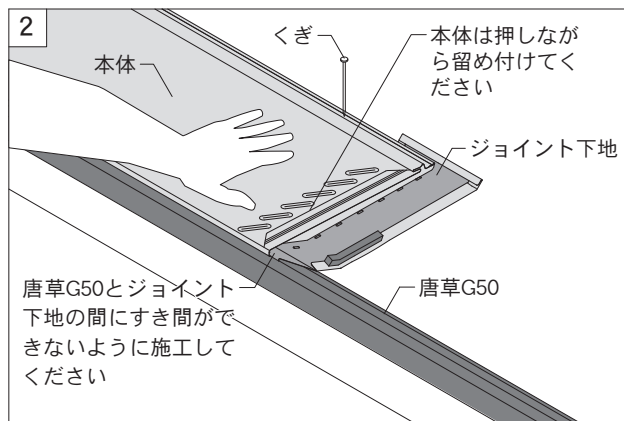
○本体の施工とポイント

ジョイント下地の施工

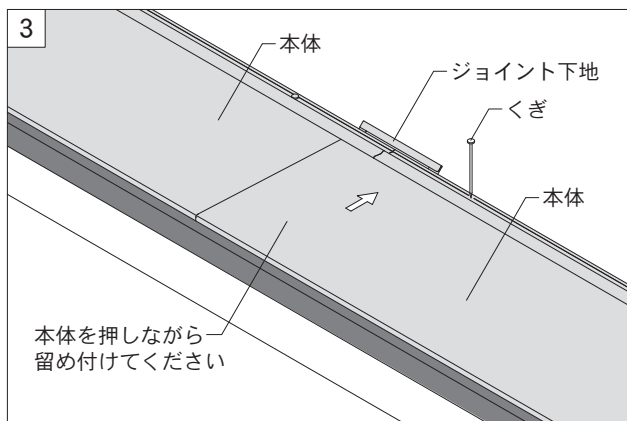
合板下地工法で施工する3.5寸未満の勾配の屋根では、本体の横ジョイント部全てにジョイント下地を施工してください。ジョイント下地は、くぎなどで穴をあけないでください。墨出し線への合わせ方や注意などは、直張工法 各部の納まりの本体の施工とポイントと併せて確認してください（P17参照）。



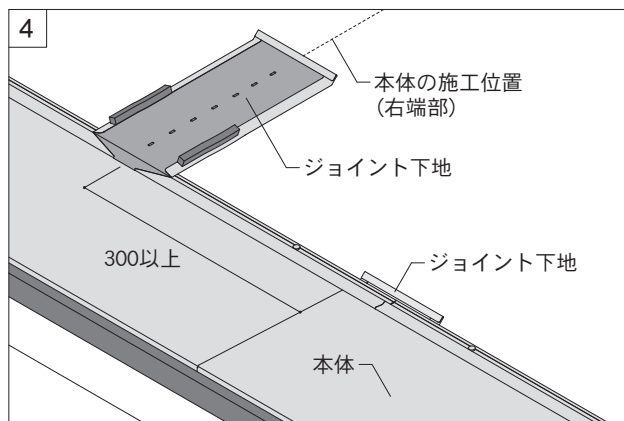
○最初に本体の施工位置を決め、本体の右端部にジョイント下地の中央リブを合わせて、ジョイント下地を配置します。ジョイント下地は、本体を施工する前に曲げないでください。



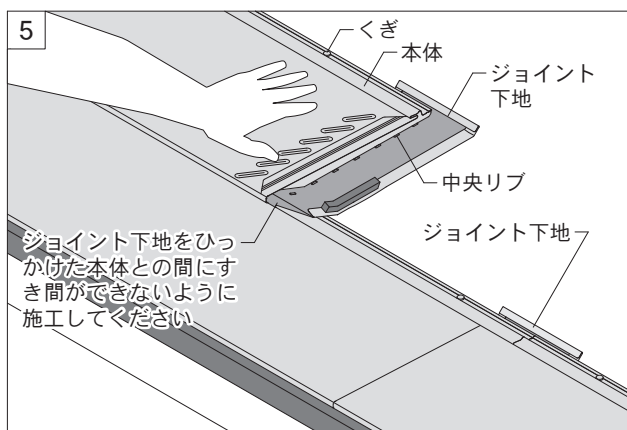
○手で本体を押しながら留め付けてください。



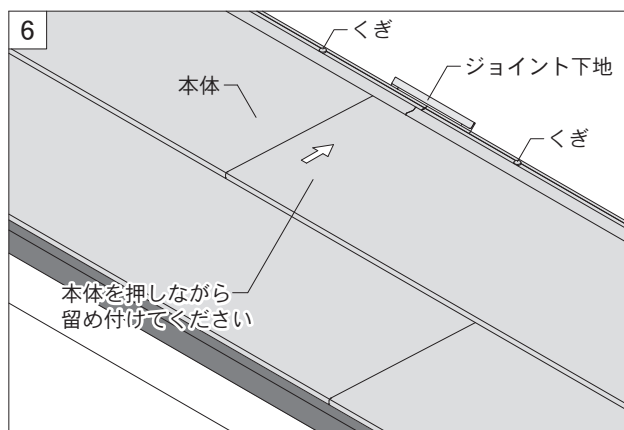
○次の本体も手で押しながら留め付けてください。



○施工順序は、二段目以降も一段目と同じです。本体の横ジョイント部は上下で重ならないように、300 mm以上離して割り付けてください。ジョイント下地は、本体を施工する前に曲げないでください。



○一段目と同様に、本体をジョイント下地の中央リブに合わせて配置し、手で本体を押しながら本体を留め付けてください。



○③と同様に、次の本体も手で押しながら留め付けてください。

事故防止のため

取り扱い時のお願い

アイジョールーフを美しく保つために

アイジョールーフ適用地域一覧

施工に必要な工具

本体・部材規格

改修物件の調査・確認

工法の確認

下葺き材・留め具の選定

直張工法

合板下地工法（カバー）

合板下地工法（葺き替え）

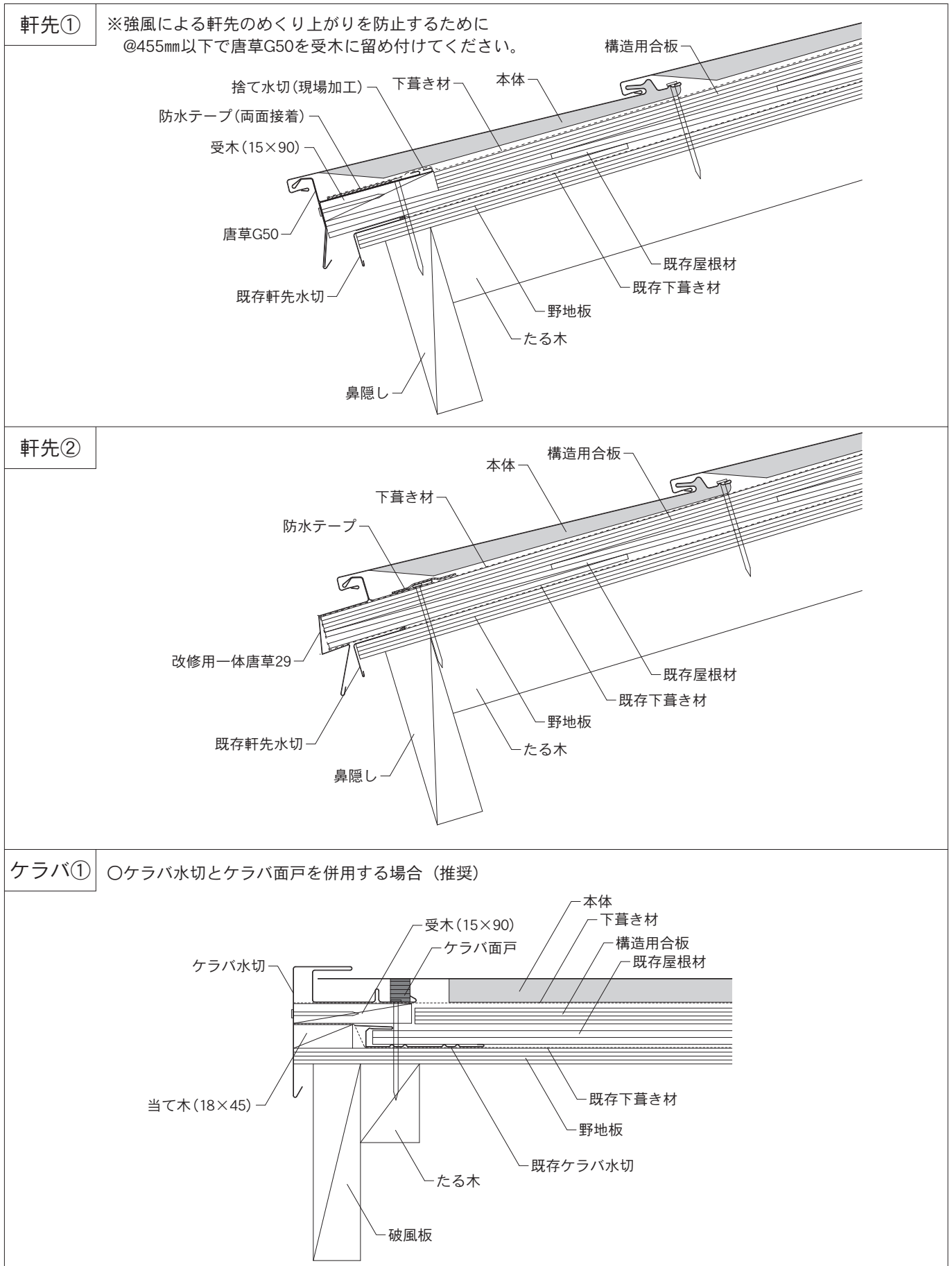
積算方法

改修物件チェックシート

免責事項

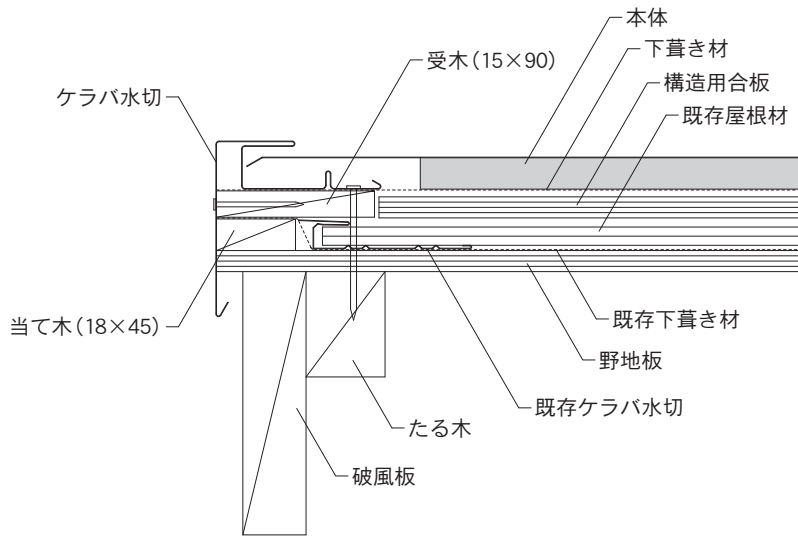
合板下地工法（カバー） 各部の納まり

・ 本体や部材の施工方法は、**直張工法 下地の調整、各部の納まり**を参照してください。（P15～66参照）

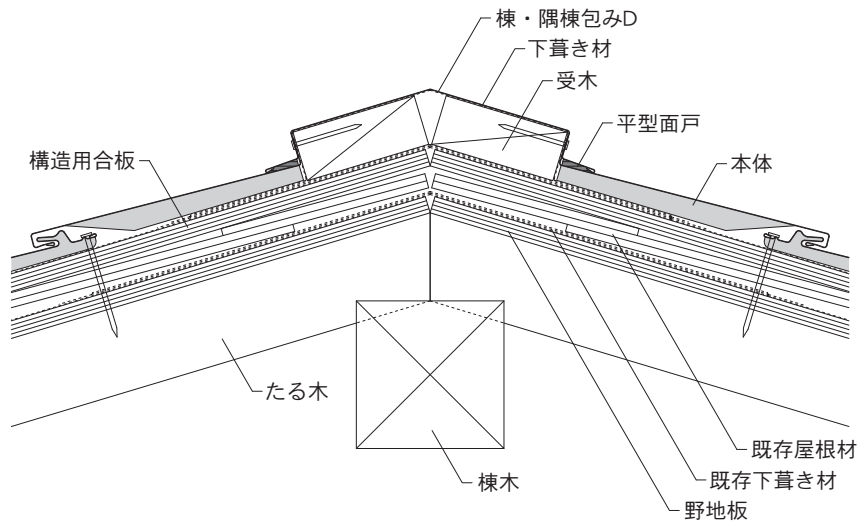


合板下地工法（カバー） 各部の納まり

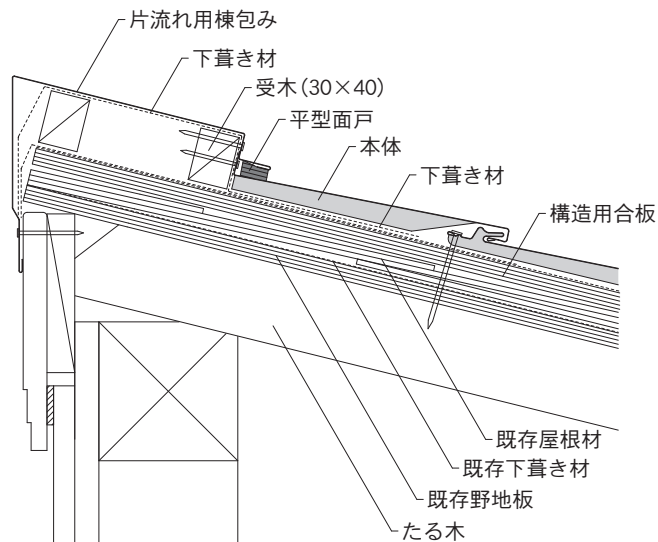
ケラバ② ○ケラバ水切を使用する場合（ケラバキャップDも使用できます。P27～参照）



棟①



棟②



事故防止のため

取り扱い時のお願い

アイジールーフを美しく保つために

アイジールーフ適用地域一覧

施工に必要な工具

本体・部材規格

改修物件の調査・確認

工法の確認

下葺き材・留め具の選定

直張工法

合板下地工法（カバー）

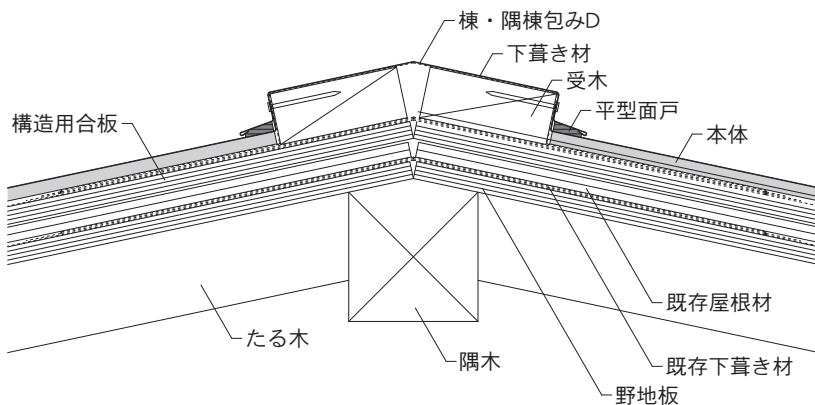
合板下地工法（葺き替え）

積算方法

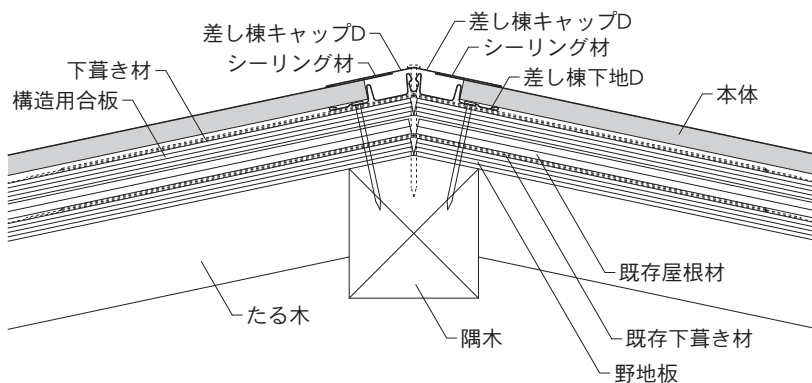
改修物件チエックシート

免責事項

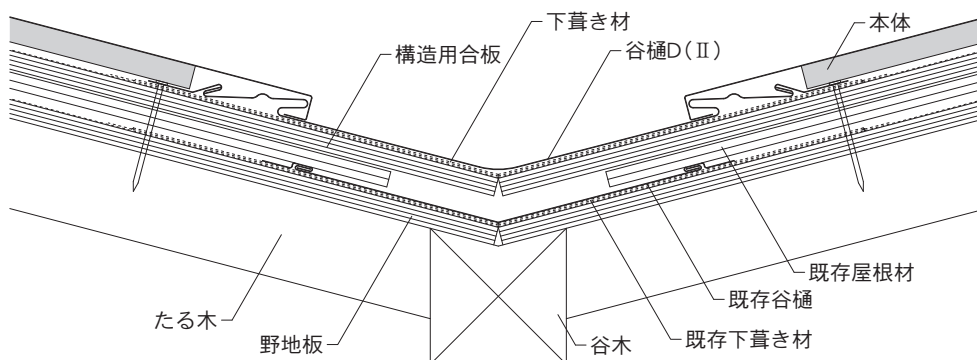
隅棟① ○棟・隅棟包みDを使用する場合



隅棟② ○差し棟キャップDを使用する場合

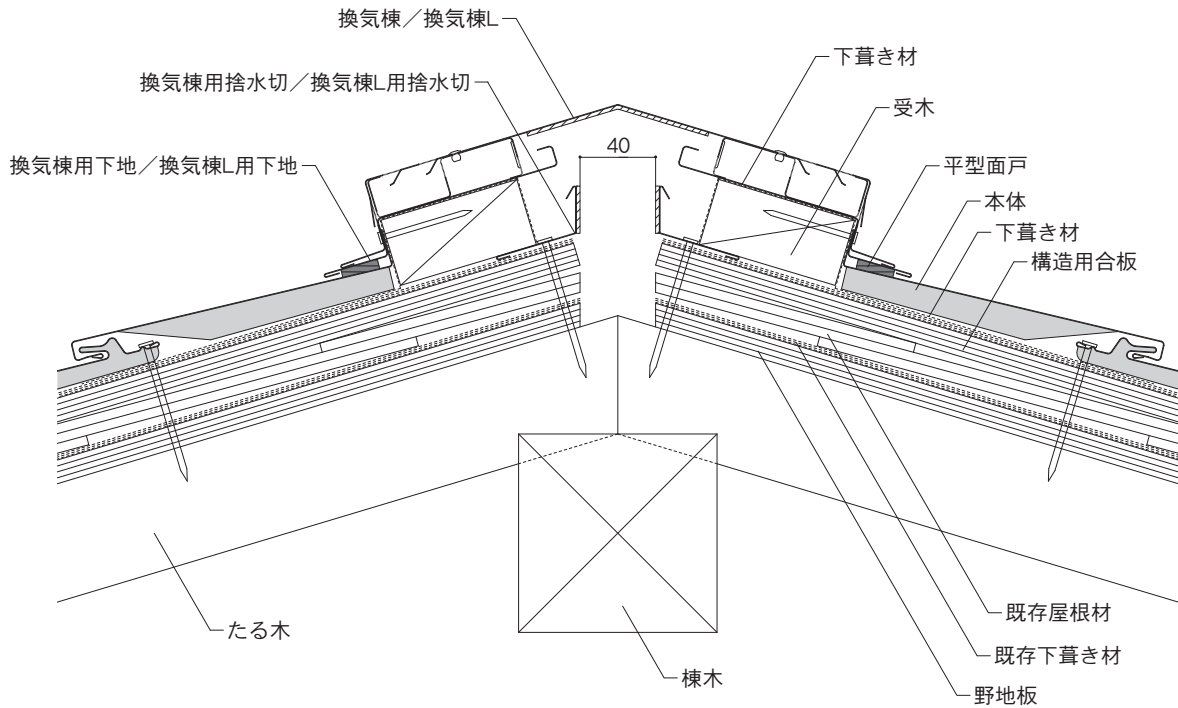


谷



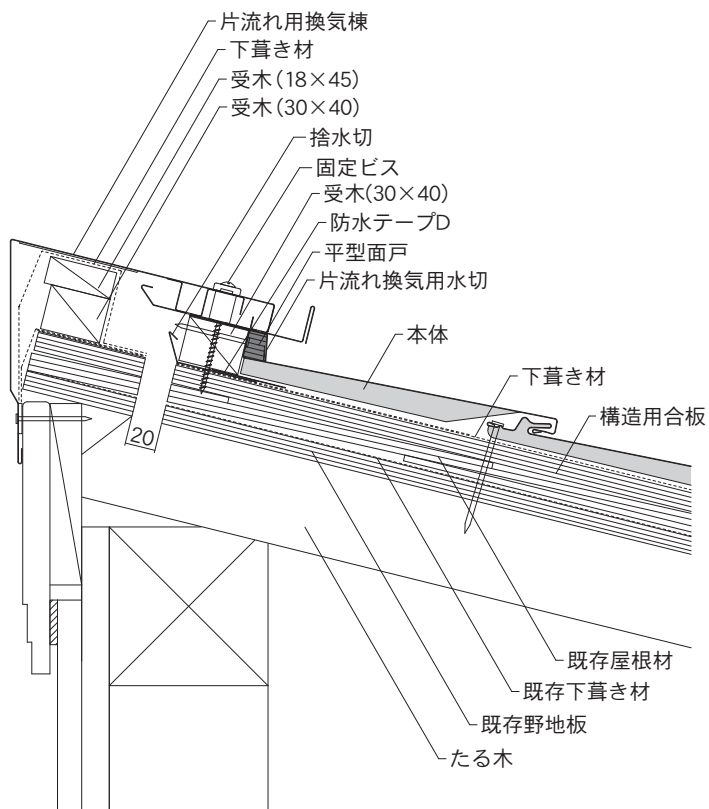
換気棟①

○換気棟または換気棟Lを施工する場合



換気棟②

○片流れ用換気棟を施工する場合



事故防止のため

取り扱い時のお願い

アイジールーフを美しく保つために

アイジールーフ適用地域一覧

施工に必要な工具

本体・部材規格

改修物件の調査・確認

工法の確認

下葺き材・留め具の選定

直張工法

合板下地工法（カバー）

合板下地工法（葺き替え）

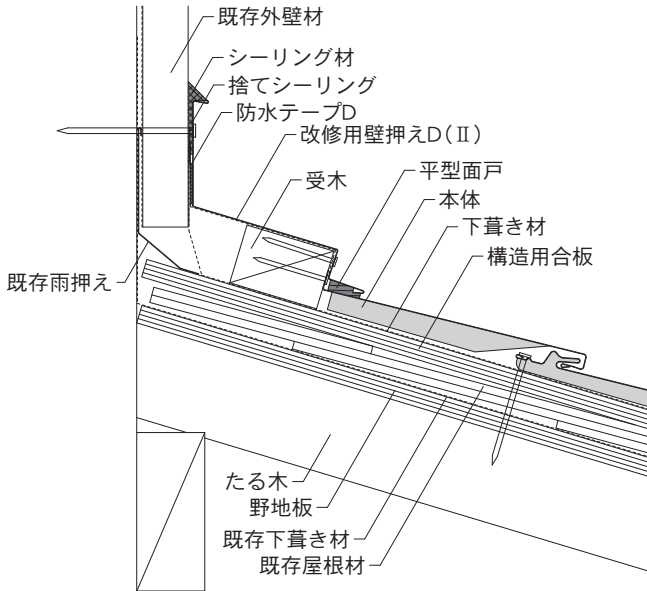
積算方法

改修物件チエックシート

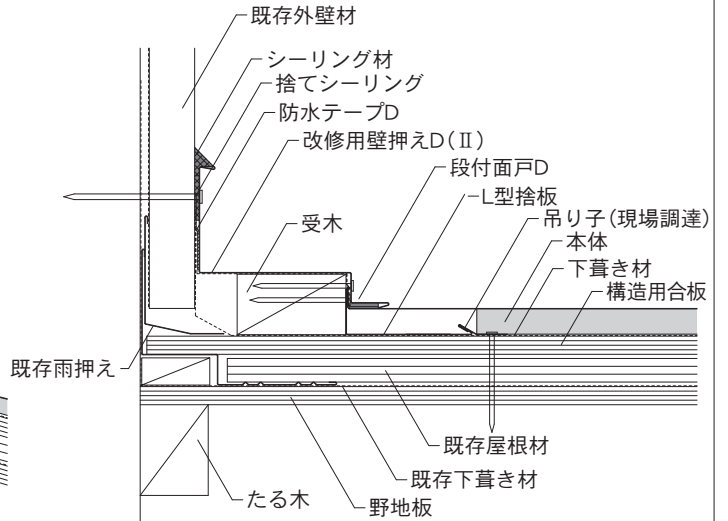
免責事項

壁との納まり①

〈流れと垂直な壁との納まり〉

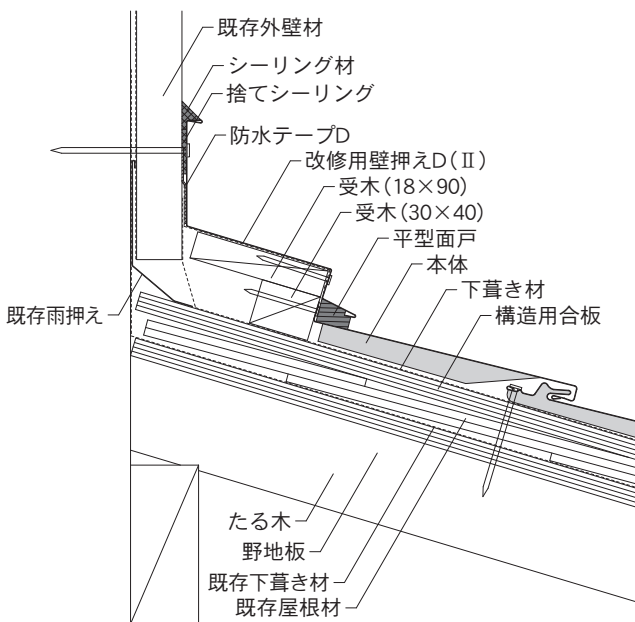


〈流れと平行な壁との納まり〉

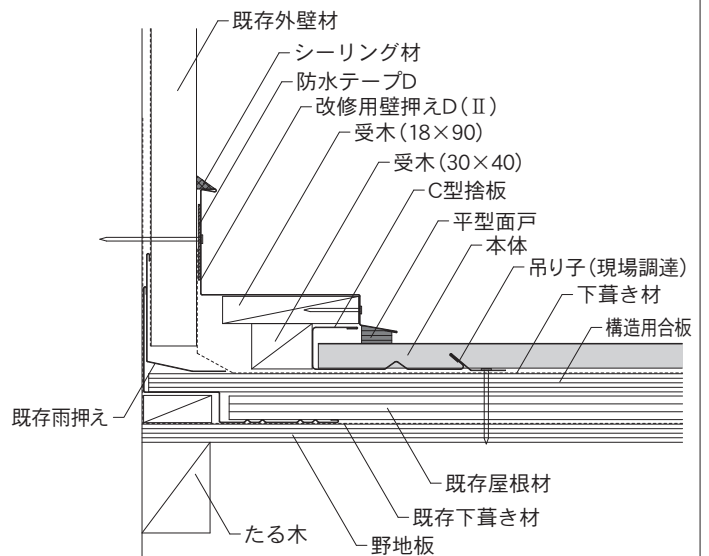


壁との納まり②

〈流れと垂直な壁との納まり〉



〈流れと平行な壁との納まり〉

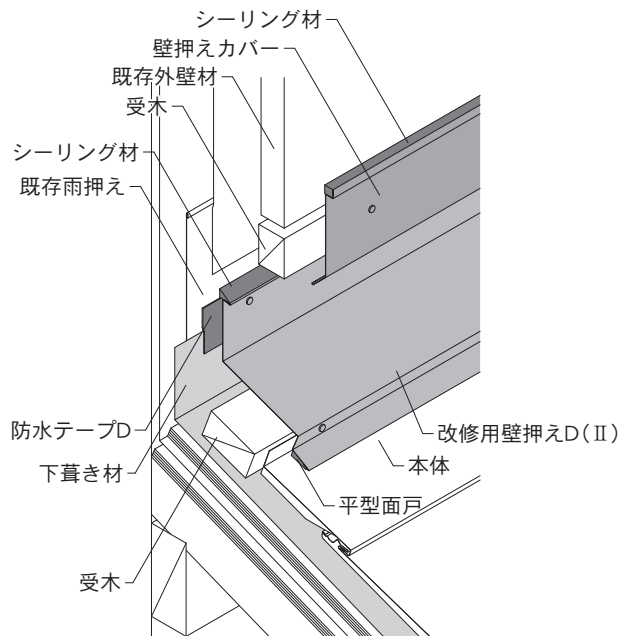
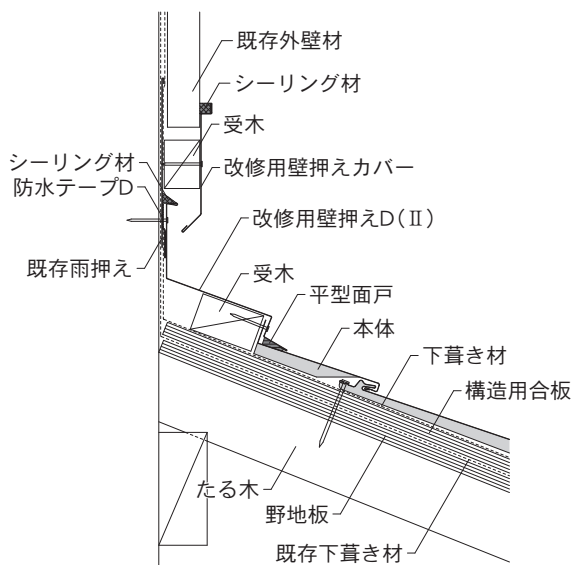


合板下地工法（葺き替え） 各部の納まり

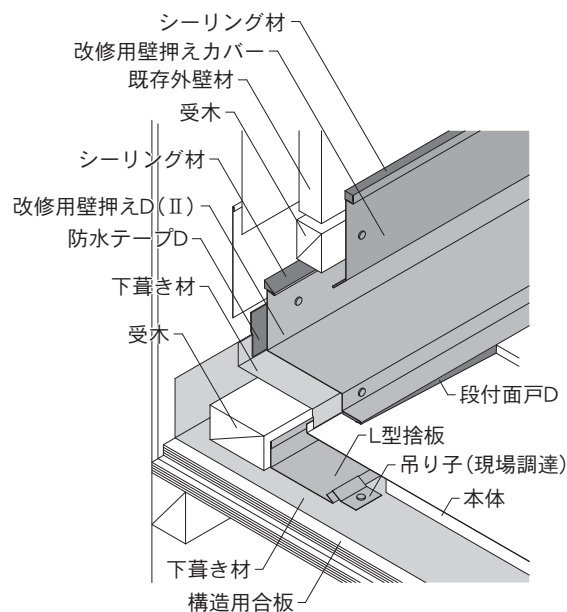
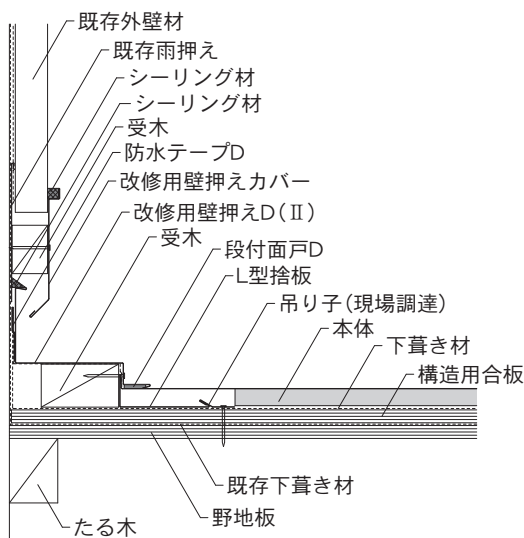
・合板下地工法（葺き替え）は、既存屋根を取り外してアイジルーフを施工する葺き替え工法です。その他の納まりは、アイジルーフ新築施工説明書を参照してください。

壁との納まり

〈流れと垂直な壁との納まり〉



〈流れと平行な壁との納まり〉



- 改修用壁押えカバーは、下地面と既存外壁材の下端との間が120～200mmの場合に使用できます。
- 既存雨押えの不要な部分を切断し、既存雨押えの受木を取り外してください。
- 改修用壁押えD(II)を留め付ける受木は、高さ36～45mm、幅60～80mmを選定してください。幅30～40mmの受木を使用する場合は、ダブルで施工してください。
- 本体を受木に合わせて立ち上げ、不要な部分は切り取ってください。
- 壁押えD(II)を既存外壁に留め付け、シーリング材を施工した後、改修用壁押えカバーを施工してください。改修用壁押えカバーを留め付ける受木は、既存外壁の厚さに合わせて選定してください。

事故防止のため

取り扱い時のお願い

アイジルーフを美しく保つために

アイジルーフ適用地域一覧

施工に必要な工具

本体・部材規格

改修物件の調査・確認

工法の確認

下葺き材・留め具の選定

直張工法

合板下地工法 (カバー)

合板下地工法 (葺き替え)

積算方法

改修物件 チェックシート

免責事項